

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 東広島市立小谷小学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	第6学年（1学級）・41人
3 展開の形式	教科で実施 教科名（学級活動：2時間（体育科運動領域と関連付け））
4 目標（ねらい）	・スポーツの価値について視野を広げ、体育科の学習（フラッグフットボール）で大切にしたいことについて考え、行動目標を守りながら学習に参加しようとする意欲をもたせる。
5 取組内容	①事前に行ったフラッグフットボールのオリエンテーションを想起させ、「スポーツはなぜするの？フラッグフットボールの学習で大切にしたいことを話し合おう」というめあてを確認させる。 ②現段階で理解しているスポーツの価値について交流させ、ランキングを行うことで、スポーツがもつ「楽しさ」について考えさせる。 ③事例1 チーム競技：ドイツ・ブンデスリーガ「ニュルンベルク VS ブレーメン」（2014.3.8）を基に、フェアプレーについて話し合わせる。 ④フラッグフットボールの学習で大切にしたいことを、チームごとに話し合い、短冊にまとめさせる。 ⑤チームごとに出された意見を、5つ程度に整理する活動を通して、スポーツのもつ楽しさを達成するために大切にしたいことを考えさせる。 ⑥事例2 個人競技：冬季オリンピック大会（2002）フィギュアスケートで村主選手が他国の選手に競技用タイツを貸した事例を基に、フェアプレーの大切さと個人の信念の大切さを印象付ける。 ⑦振り返りとして、この学習を通して考えたこと、フラッグフットボールの学習を通してがんばりたいことをノートに記録させる。
6 主な成果	・フラッグフットボールの学習中、セルフジャッジを公正に行おうとする、競技開始時・終了時の挨拶を丁寧に行おうとするなどの姿が見られた。 ・単元の事前事後児童アンケートにおいて、協力と公正の項目で高まりが見られた。（「友だちとアドバイスをし合う」の「あてはまる」回答率 34.1%⇒85.4%、「ゲームに負けても素直に負けを認める」の「あてはまる」回答率 75.6%⇒100%） ・スポーツを「する」だけではなく、スポーツについて知ったり、考えたりする座学の時間を設定し、関連付けることで、「見たい」「支えたい」「知りたい」という関心の高まりが見られた（本校実施質問紙調査による）。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	・対象児童が第5学年時にフラッグフットボール単元を経験していることを受け、その反省に立って考えを深められるようにした。 ・話し合いのグループをフラッグフットボールのチームで編成し、キャプテンを中心に活動できるようにした。 ・事例を紹介する際に、動画を用い、具体的なイメージをもって考えることができるようにした。 ・話し合いの結果を「正々堂々 フェアプレー宣言」（資料1）として整理し、フラッグフットボールの学習中に常時掲示した。
8 主な課題等	・事例としてサッカーとフィギュアスケートを用いたが、これらの種目に対する関心や知識に個人差が大きく、指導者による補足説明が必要であった。授業計画段階において情報収集をする際、児童の発達や実態に応じて検討するだけの十分な事例を集めることが難しい。

9 来年度以降の 実践予定	・「する」「見る」「支える」「知る」といった運動への多様な関わりを更に広げるためには、きっかけとなりうる「知る」学習活動を、体育科運動領域と関連付けることが有効である。スポーツに対する多様な興味を喚起する学習を、発達に応じて設定していきたい。
------------------	--

<資料1>

話合いの結果から整理した「正々堂々フェアプレー宣言」

正々堂々フェアプレー宣言

- 1 「スポーツは楽しむためにしている」を忘れない。
- 2 スポーツの時は、だれもが平等。ルールを守る。
- 3 相手がいるから楽しい。あいさつ・あく手をする。
- 4 目標に向かってチームで協力する。

本気で練習・本気で試合・本気で話合い

- 5 負けてもくじけない。失敗しても励ます。次に生かす。
- 6 準備や後片付けは、全員で気持ちよくする。